

在宅福祉サービスの推進

高齢者や障がい者が、地域で「安心して」生活を送るためには在宅福祉の充実が重要です。これからの在宅福祉を担う人材の育成や福祉用具の普及など、在宅福祉サービスの推進に努めています。

在宅福祉サービス推進事業

介護知識・福祉用具の普及啓発を図るとともに、在宅福祉を支える福祉人材を養成しています。

主な取り組みとしては、

1 介護知識・技術の普及促進事業

○介護講座開催事業

○高齢者や障がい者の生活支援に関する啓発・情報提供

○介護・福祉用具相談事業

2 福祉用具の普及

○福祉用具展示事業

○自働具製作ボランティア育成事業

3 福祉人材の養成

○居宅介護従業者養成研修

○介護支援専門員実務研修受講試験の実施

○介護支援専門員実務研修

4 市町村等支援事業

○高齢者虐待防止体制整備支援事業

○介護予防市町村担当者等研修事業

などがあります。

介護に関する情報発信と人材育成 大阪府立介護情報・研修センター

在宅福祉サービスの推進については、茨木市にある大阪府立介護情報・研修センターを拠点施設として、自働具製作体験講座、基礎講座、家庭介護講座や、専門職のための講座などを実施し、福祉にかかわる情報発信と人材の育成を行っています。

介護情報・研修センターは、1994(平成6)年4月、大阪府立介護実習・普及センターとしてオープンし、2006(平成18)年に現在の名前に改称されました。



上/介護情報・研修センターの福祉用具展示スペースの一部
左/福祉用具の体験ができるコーナー

介護に関する各種相談、認知症に関する電話相談を実施するとともに、大阪府内の市町村介護予防事業窓口の情報などを発信しています。

さらに、介護情報・研修センターでは、約700点の福祉用具が展示されています。

センターのテーマは「見て、触れて、試して」。用具の利用体験もでき、福祉用具への理解を深めることができます。さらに、保健師や理学療法士等の専門職による介護・福祉用具に関する各種相談を行っています。

「FINEおおさか」では、オープンした年の12号で在宅ケア・システムの拠点としてセンターを紹介。開所記念の催しや、始まったばかりの一般向け介護講座の様子などを伝えました。1996(平成8)年18号では、「老いを支える よりよい在宅介護のために」という特集を掲載。介護の専門家や識者、介護経験者への取材を通して、在宅介護の課題や問題点を取り上げるとともに、介護の総合拠点である同センターの活動や施設の内容を掲載しました。

また、2008(平成20)年68号では、「暮らしを豊かにする福祉用具」と題した特集を実施。介護を受ける側も、介護する側も、共に豊かな暮らしができるための情報を発信しました。この号では、同センターの福祉用具展示場のさまざまな種類の福祉用具を紹介。リフトを使ってベッドから車いすへの移乗の体験の様子なども掲載し、最新の福祉用具事情を伝えました。